

問題文は二、三の二題からなっています。配点はそれぞれ50点です。

□ 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

※引用文は著作権法にもとづき割愛します

【問一】 傍線部(ア)～(オ)の漢字をひらがなに直しなさい。

【問二】 傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

【問三】 本文中の空欄 A、C に入る語として最も適当なものを次の①～⑩の中からそれぞれ一つ選
びなさい。(同じものを二度選ばないこと)

- ① しかし ② 必ずしも ③ それに対して ④ むしろ ⑤ とても ⑥ それゆえに
⑦ なぜかというと ⑧ 以上のことから ⑨ このようにして ⑩ したがって

【問四】 文中の X に入る文章として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 見えないのである。
② 近すぎるのである。
③ 理解できないのである。
④ 離れすぎているのである。
⑤ 偉大過ぎるのである。

【問五】 二重傍線部 Y 近景の人物が中景の人物に変わる。なんということなしに、心ひかれるようになる。の説明について、
最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 近景の人物は、優れた点ばかりが目立ち、欠点が見えないので距離を置いたところから見る必要がある。
② 中景の人物は、欠点が強調されるため、偉大な人物でも正しく評価されないことがある。
③ 欠点が目につく人物も、時を経ることによって尊敬され、評価されるようになることもある。
④ 近景の人物は長所が目につき、時を経ることによって、その長所が見えなくなり妥当な評価が可能となる。
⑤ 人物を評価する際には、近景より中景、中景より遠景の方が正確な判断が期待できる。

【問六】二重傍線部「たのしい。」に込められている筆者の考えとして適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 楽観 ② 悲観 ③ 積極的受容 ④ 皮肉 ⑤ 希望

【問七】筆者の歴史のとらえ方として、適切なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 三十年前、四十年前の歴史が正確な歴史である。
② 三十年、四十年たつと、大人物は常に小さく見えるものである。
③ 歴史をとらえるには、近景より遠景のほうが正確である。
④ 三十年後、四十年後から見た歴史は、中景としての見方であるといえる。
⑤ 事実を適切に記録した現在の記録が正しい歴史的事実を示す唯一のものである。

【二】 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

※引用文は著作権法にもとづき割愛します

【問一】 傍線部(ア)～(オ)の漢字をひらがなに直しなさい。

【問二】 傍線部(1)～(5)のカタカナを漢字に直しなさい。

【問三】 本文中の空欄

A

 ～

C

 に入る語として最も適当なものを次の①～⑥の中からそれぞれ一つ選びなさい。(同じものを二度選ばないこと)

- ① ただし ② しかし ③ つまり ④ あるいは ⑤ そして ⑥ したがって

【問四】 二重傍線部

X

 「情報の空白」が好奇心を引き起こす理由について、最も適当なものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 適度な情報の欠如は、知りたいこと、既知のこと未知のことのバランス、または差異を埋めるために、質問を通じて解決できるため。
- ② 情報の不足や空白は、常に周囲の変化を予測する脳にとって、セイリエンスネットワークを活性化させやすい状態であり、不整合の欠如が好奇心を生み出すため。
- ③ セイリエンスネットワークは未知であることを知らない時に活性化するため、既知のこととのバランス、または差異で何らかの不整合が起こり、好奇心が呼び覚まされるため。
- ④ 既知のことと未知のこととの間に差異や不足があると、その不整合がセイリエンスネットワークを活性化させ、情報を埋めたいという欲求が生じるため。
- ⑤ 情報の不足は通常、質問を通じて解決されることが多く、適度な情報の欠如が好奇心を生み出すと言えるため。

【問五】 二重傍線部

Y

 「希求期待システム」とはどのようなシステムか、最も適当でないものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自分の外側からの知識だけでなく、自分の内側からのひらめきを通じて知識を獲得しようとする。
- ② 中途半端な情報や未解決の情報が存在する場合に活性化し、その人の関心の強さや価値観に依存して知識の探索をし続ける。
- ③ 情動システムの一部であり、特に中脳のドーパミンシステムが重要とされ、好奇心の発現に関与している。

④ 中途半端な情報や未解決の情報を解決するために、ぼんやりしている時にも、自分が持っている断片的な知識から探索し続ける。

⑤ 個人の好奇心の対象や、どこまでの知識で満足するかというその人の関心の強さを形成し、自分の中で知識の基となる直感を得る。

【問六】二重傍線部 Z 「好奇心を低下させる要因」についての説明として、最も適当でないものを次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 自分が何でも知っていると思いつい込むこと。
- ② 自分の知識の限界を認識していないこと。
- ③ 知らないことを認めることによるストレス。
- ④ 扁桃体を活性化させないこと。
- ⑤ 無知の状況を避けようとすること。

【問七】本文の内容に最も合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 知らないことを認めることがストレスの原因になり、好奇心を低下させるため、自分が持っている情報を信じて行動を習慣化させることが、好奇心や疑問を素直に表現できることにつながる。
- ② 未解決の問題や中途半端に終わった作業が記憶に残りやすい現象を「ツァイガルニク効果」といい、達成できなかつた疑問や中断した事柄が自然と思いつい出され、無意識に完了することを求められる。
- ③ 好奇心が低下する要因として、自分がすべてを知っていると思いつい込む「過信効果」や「肯定錯覚」が挙げられる。このような過信は、自分の知識に対する盲点を作り出し、結果として好奇心や疑問を抱く機会が減少するとされている。
- ④ 好奇心は、予測と実際の出来事の不整合に反応する脳の仕組みに関連しており、これが驚きや探求心を引き起こすとされている。また、情報の欠如が好奇心を刺激するが、多くの固定概念に縛られている大人は、未解決の問題に対する執着心が生まれることはない。
- ⑤ 子供たちは幼少期に「何」や「どこ」といった質問を通じて事実を探索し、成長するにつれて「どうやって」「や」「どうして」といった説明を求める質問が増えていくとされている。また、年齢を重ねるにつれて好奇心は増加していくが、大人になると固定観念に縛られることが多くなり、質問が減る傾向にある。

問題は以上で終わりです。